



題字は達増知事

令和4年3月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

URL: http://iwate.lin.gr.jp

E-Mail: info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷



## ヨーグルトサミットレガシー 酪農家と乳業メーカーの懸け橋

株式会社おおのミルク工房

専務取締役 浅水 巧美

久慈地方の酪農家を中心とした24名の有志が結集して、平成17年1月5日に有限会社おおのミルク工房(平成26年に株式会社に組織変更)は産声を上げました。

設立以来、地元市町村や農協、久慈地域の酪農家の皆様から多大なるご尽力・ご支援をいただいております。

当社は、「酪農家の想いと夢をおいしさに」をモットーに、酪農家さんからいただいた生乳を一滴たりとも無駄にせず、生乳本来の味わいを最大限活かした製品づくりを、常々心掛けております。

ありがたいことに、現在は県内だけでなく、県外にもヨーグルトや乳製品をお届けし、ご支持いただいております。

実は、今年で設立18年目を迎えた当社は、令和4年4月から新たな事業にチャレンジすることにいたしました。それは、「酪農家と乳業メーカーの二刀流」です。

そのきっかけは、「第3回全国ヨーグルトサミットinいわて」に携わらせていただいたことです。

地元酪農家と密接な関係にある中小乳業メーカーが県内に多く点在していること、そしてそれらのメーカーが岩手県ミルクフェアや学校給食などでお互いに連携するという関係ができていたこと、こうしたことは、全国にもあまり例がなく、サミットでは初めて民間主体の実行委員会結成につながりました。

誰かが矢面に立つのではなく、共に肩を並べて運営していくことで、地域や乳業・酪農の魅力を発信して参りました。

第3回のコンセプトは、「酪農家とつながるヨーグルトサミット」でした。

当初は、令和3年9月の大規模開催を目指しておりましたが、新型コロナウイルス感染の拡大により、WEBを中心とした開催を余儀なくされました。

WEB中心の開催になったものの、関係者の想いを風化させたくない一心から、ヨーグル党総選挙や全国

ヨーグルトマルシェ、シンポジウムなどを通して、県内外に乳業・酪農・地域の魅力を発信して参りました。

大変ありがたいことに、当社の製品がヨーグル党総選挙の「カ党部門」でグランプリを受賞することができました。これは、おおのミルク工房のファンはじめ、酪農家・地域の皆様のご支援あつての快挙だと考えています。

その後、会社にヨーグルトサミットレガシーを持ち帰った時に、「果たして、本当の意味で酪農家とつながっていただろうか?」と、ひとつ疑問が浮かびました。

当社は、原料となる生乳のやり取りで、酪農家と乳業メーカーはつながっておりますが、直接酪農家を訪れるのは、年に数えるほどしかありません。

情報交換や意見交換をする場、そして酪農の魅力を発信すべき乳業メーカーとの直接のやり取りは少ないのです。そこで思いついたのが「酪農家と乳業メーカーの二刀流」です。

サミットが気付かせてくれたのは、1次産業・2次産業が肩を組み連携して取り組むことで、2倍・3倍の推進力となるというものでした。

搾乳に休みはありません。酪農家さんに何か急な用事がでた時にその代役を担うのがヘルパーです。しかしながら、コンスタントにヘルパーの需要がある訳ではなく、ヘルパーだけでは安定した収入が得られません。

そこで、当社のスタッフがヘルパーを兼ねることはできないかと考えました。ヘルパー需要には優先的に対応、それ以外の時にはメーカーのスタッフとして働く、まさに2足のわらじ、二刀流です。

これは、全国的にも珍しい取組であり、決して簡単な道のりでないことは承知の上でチャレンジいたします。

サミットを通じて得ることのできたレガシーを、これから会社やスタッフ1人1人が意識し、繋いでいくことで風化させず、さらに高みを目指して昇華させていきたいと考えてます。

# 畜産春秋

## もくじ CONTENTS

畜産春秋	1
令和3年度岩手県獣医畜産業績発表会	2
令和3年度岩手県獣医畜産業績発表会(岩手県知事賞獣医部門)	2
令和2年度に実施した経営診断の概要《酪農部門》	4
岩手県立農業大学校がJGAP【家畜・畜産物】認証を取得	7
岩手県養豚振興会令和3年度第2回養豚経営研修会	8

第3回全国ヨーグルトサミットinいわて	8
畜産の研究(136)	9
家畜の保健衛生(140)	10
畜産技術情報(89)	11
子牛市場及び家畜市場成績	12

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

### 令和3年度岩手県獣医畜産業績発表会

令和3年度岩手県獣医畜産業績発表会（岩手県主催）が、令和4年1月27日と28日の二日間にわたり、岩手県水産会館において開催されました。

この発表会は、県内の獣医・畜産関係者が日常の業務に関連した調査指導や診療、試験研究等の業績について発表討議を行うとともに、技術の交

換・交流を図ることを目的とするものです。今年度については、新型コロナ対策のため、発表者と審査委員等に参加者を限定しての発表会となりました。

一日目の獣医部門には、家畜保健衛生所から17題、岩手県農業共済組合から2題の発表があり、二日目の畜産部門には、普及センターから5題、振興センターから2題、岩手県立農業大学校から4題の発表がありました。

審査の結果、次の演題が各賞を受賞しました。

表彰名	演題	発表者
岩手県知事賞（獣医部門）	牛伝染性リンパ腫に対する自立的対策の支援体制づくり	岩手県南家畜保健衛生所 戸塚 知恵
岩手県知事賞（畜産部門）	カシオペア和牛子牛産地確立の取組	二戸農業改良普及センター 峠館 大介
岩手県獣医師会長賞	黒毛和種育成牛に発生した慢性銅中毒と糞便中銅濃度による牛群の銅の動態評価	岩手県中央家畜保健衛生所 千葉 由純
岩手県畜産協会会長賞	G P S放牧牛管理システムを活用した日本短角種放牧地の看視省力化	宮古農林振興センター 熊谷 祐宏
岩手県農業共済組合長賞	ロタウイルス感染による子牛の下痢症が多発した黒毛和種繁殖農場における牛下痢5種混合不活化ワクチンの効果	岩手県農業共済組合 岩手県南基幹家畜診療所 磐井家畜診療所 高橋 知也
岩手県畜産技術連盟賞	“見える化”により、分かる、広がる効果的な普及活動	奥州農業改良普及センター 羽田 雅紀

### 令和3年度岩手県獣医畜産業績発表会

#### 岩手県知事賞受賞（獣医部門）

## 牛伝染性リンパ腫に対する自立的対策の支援体制づくり

岩手県南家畜保健衛生所 主任獣医師 戸塚 知恵

牛伝染性リンパ腫は、その発生が確認された場合に、知事への届け出が必要な家畜の伝染性疾病（届出伝染病）の中で、国内で最も発生が多い牛の病気です。昨年度の岩手県での発生報告は229頭で全国4番目でした。県内発生7割は県南地域が占めており、早急な対策が求められています。本病は主にアブなどにより媒介されるほか、出血を伴う行為や初乳を介して感染が成立しますが、発症するのは、そのうちのわずか数%で、しかも発症までには数年以上の時間を要するという厄介な病気です。当所では「県南地域牛伝染性リンパ腫対策推進プラン」を掲げ、長期的視野で①正しい知識の普及、②対策の実践、③農場へのフォロー

アップに取り組んでいるので、今年度の成果の概要をご紹介します。

#### 課題

- ① 生産者の正しい知識の理解  
この疾病に対する理解度がまだ十分ではなく、感染牛は全てリンパ腫を発症するという誤解をしている方も少なくありません。また、疾病を過度に恐れるあまり検査に消極的な方も多く存在します。
- ② 検査体制の整備  
当所では発生があった農場や不特定多数の牛が集まる公共牧野（12か所）に対し、対策の支援を行っていますが、検査時期が冬から

ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。

**くずまき交流館プラトール**

TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511

乳製品の自宅宅配承っております。

**ミルクハウスくずまき**

TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031

風車が回る高原の焼肉レストラン

**レストハウス袖山高原**

TEL/FAX. 0195-68-2010

**くずまき高原牧場** 一般社団法人

〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125

TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755

**葛巻町畜産開発公社**

http://www.kuzumaki.jp

春先に集中するため、十分な対応ができないのが現状です。

③ 継続的な対策

牛舎構造や飼養環境は多様であり、取り組みたい意識があっても無理だとする方、一度は取り組んだものの、終わりがないため対策を止める方もいるため、簡易で低コストな対策が求められています。

取組内容

① 分かりやすい媒体を用いた正しい知識の普及  
疾病及び対策への理解醸成のため、「入門編」リーフレットを作製しました。アブによる感染が多いこと、感染してリンパ腫を発症するのはわずか数%であるなど、この病気の特徴と対策ポイントを絞って簡潔にまとめ(図1)、巡回時や研修会で活用しています。

② 抗体検査の一部外部委託

当所に併設している岩手県南家畜衛生推進協議会(以下、「協議会」)に、抗体検査を行う仕組みを整えました(図2)。この業務に子育て中でキャリアを中断している獣医師を雇い、検査要望にタイムリーに応えつつ、家保の業務コストが大幅に削減できました。

③ 農場環境に関係なく取り組みやすい対策の提供

当所では昨年度からアブ防除ジャケットを推進しています。今年度は協議会が一定数を地域のアパレルメーカーに製造発注することで、低コストに提供が可能になりました。牛舎にネットを整備できない場合や公共牧場に入牧時の検査

結果が出るまでの間、利用を勧めています(図3)。

成果

① 疾病・対策への誤解解消

入門編リーフレットを用いて普及に努めた結果、疾病や対策への誤解が徐々に解消されていると感じています。従来より対策に前向きな声が多く聞かれるようになりました。

② 対策指導に注力

家保が行う抗体検査は、昨年度比で90%減少(69戸600頭から13戸63頭)し、その分を協議会が担いました(検査受託実績57戸460頭)。また、ヨーネ病検査の余剰血清を活用し、新たに5地域34戸の検査希望に対応できました。家保の能力以上の検査が可能となり、疾病診断や対策の指導に注力できました。

③ アブ防除ジャケットを活用した対策の推進

母子分離までの水平感染防止や物理的に分離飼養が困難な場合にアブ防除ジャケットを勧め、今年度は357着が活用され、対策に後ろ向きであった生産者も活用しています。

まとめ

本病はワクチンがないため、定期的な検査と感染対策を地道に取り組むほかに予防方法はありません。当地域は国内有数の和牛の産地であり、そのブランド力を高めていくために、BLフリーの牛を増やすことが我々の任務と考えています。そのためには地域一体となった取り組みに発展することが理想で、すでに一関市にあるグループでの活動も始まっています。今後も、対策に取り組む地域が拡大するよう取り組んでまいります。



図1 リーフレット「牛伝染性リンパ腫と対策～入門編～」

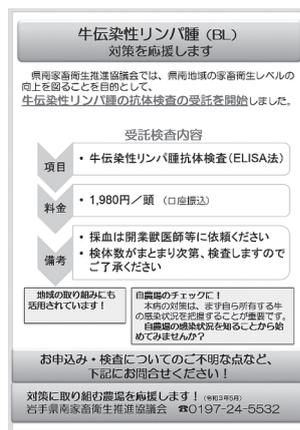


図2 県南家畜衛生推進協議会による検査受託の案内



図3 アブ防除ジャケットを用いた対策

**農場 HACCP 認証 CERTIFIED** 中央畜産会認証第1号(南山形)

**母豚 2,000頭の一貫経営**

- 農場 HACCP 認証農場
- 良質豚ふん堆肥の供給
- 徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

**「みなみよ～とん株式会社」**  
 岩手町大字川口36-242-3  
 TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373  
 ※精肉のご用命は岩手畜流会(食肉専門店)へ

# 令和2年度に実施した 経営診断の概要

## 《酪農部門》

### 1 令和2年度分析対象の内訳

令和2年度の分析対象は、経営診断改善指導5例及び経営管理技術指導17例の計22例です。

#### (1) 目的別の内訳

経営状況把握	17例 (77.3%)
所得向上のための改善点検討	4例 (18.2%)
資金借入に係る診断	1例 (4.5%)

#### (2) 振興局毎の内訳

振興局	盛岡	県南 本局	県南 花巻	県南 一関	県南 遠野	沿岸 宮古	県北 本局	県北 二戸
例数	8	3	1	3	2	1	2	2

#### (3) 経営の概要

##### ア 全事例平均経営規模

飼養頭数	経産牛1頭当たり 飼料作延べ面積	投下労働力
97.0頭(うち経産牛58.2頭)	122.6 a	3.8人

##### (ア) 経産牛頭数規模別内訳

20頭未満	20頭以上 30頭未満	30頭以上 40頭未満	40頭以上 50頭未満	50頭以上 80頭未満	80頭以上
2例 (9.1%)	3例 (13.6%)	5例 (22.7%)	3例 (13.6%)	5例 (22.7%)	4例 (18.2%)

##### (イ) 労働力

家族労働力を主体としており、50頭未満の小・中規模階層では、ほとんどが定期的に酪農ヘルパーを利用していました。50頭以上の規模では、従業員を常時雇用することで、飼養管理・飼料生産等における労働力を補っています。

##### イ 飼養・搾乳形態

つなぎ バケツ搾乳	つなぎ パイプライン搾乳	フリーストール パーラー搾乳
1例	18例	3例

### 2 分析結果の概要

#### (1) 生産技術指標

【生産技術項目の数値（下段は標準偏差）】

項目	令和元年度	令和2年度
例数	22	22
平均分娩間隔	146か月 ±0.88	146か月 ±0.94
経産牛1頭当たり平均産乳量	8,514kg ±1,091	8,473kg ±1,513
平均乳脂率	3.88% ±0.21	3.94% ±0.19

平均無脂固形分率	8.76% ±0.08	8.80% ±0.09
平均経産牛更新率	25.5% ±0.16	26.9% ±0.08
平均産次数	2.5産 ±0.47	2.6産 ±0.42
牛群検定加入比率	95.5%	95.5%

##### ア 平均分娩間隔

14.6か月(標準偏差: ±0.94か月、中央値14.6か月)で、前年と同じ数値となりました。

平均分娩間隔の最長は16.3か月、最短は12.9か月でした。

##### 【分娩間隔階層毎内訳】

13か月未満	1例 (4.5%)
13か月以上14か月未満	7例 (31.8%)
14か月以上15か月未満	6例 (27.3%)
15か月以上16か月未満	6例 (27.3%)
16か月以上	2例 (9.1%)

##### イ 経産牛1頭当たり平均産乳量

8,473kg(標準偏差: ±1,513kg、中央値8,308kg)で、前年より41kg減となりました。

事例数の多い階層は8千kg~9千kg未満の10事例で、全体の45.5%を占めていました。

9千kg以上の階層は6事例(27.2%)で、全て牛群検定加入農家でした。

##### 【経産牛1頭当たり生乳生産量階層毎内訳】

6千kg未満	2例 (9.1%)
6千kg以上7千kg未満	2例 (9.1%)
7千kg以上8千kg未満	2例 (9.1%)
8千kg以上9千kg未満	10例 (45.5%)
9千kg以上10千kg未満	3例 (13.6%)
10千kg以上	3例 (13.6%)

##### ウ 乳質

平均乳脂率は3.94%(標準偏差: ±0.19%、中央値3.97%)、平均無脂固形分率は8.80%(標準偏差: ±0.09%、中央値8.81%)となっており、ともに指標値を上回っていました。

年間平均成績では指標値を上回っていましたが、ほとんどの事例で夏季の成分低下が見られていました。

##### エ 平均経産牛更新率

経産牛更新率は平均26.9%で、前年より1.4%上回りました。(中央値23.8%)

ほとんどの事例の更新率は15%~35%でしたが、中には廃用事故の発生等により、40%を超える事例もありました。

#### (2) 財務管理指標

【財務管理項目の数値（下段は標準偏差）】

項目	令和元年度	令和2年度
例数	22	22
生乳1kg当たり販売価格	120.1円 ±4.84円	121.8円 ±3.29円
生乳1kg当たり生産原価 (家族労働費を除く)	83.4円 ±23.6円	90.5円 ±20.2円
乳飼比	44.3% ±10.9%	43.4% ±10.8%
経産牛1頭当たり平均所得額	143千円 ±134	156千円 ±178
所得率	13.0% ±12.1	13.7% ±16.2
負債比率(負債/自己資本)	60.3% ±39.0	51.2% ±41.0

ア 収益性

(ア) 生乳1kg当たり販売価格(補給金込みの単価)

生乳1kg当たり販売価格の平均は121.8円(標準偏差: ±3.29円、中央値122.6円)で、約1.7円販売価格が上昇しました。

(イ) 生乳1kg当たり生産原価

家族労働費を除いた生産原価は約90.5円(標準偏差: ±20.2円、中央値89.6円)で、前年より7.1円上回りました。

【生乳1kg当たり生産原価(家族労働費除く)階層毎内訳】

60円未満	2例 (9.1%)
60円以上70円未満	1例 (4.5%)
70円以上80円未満	3例 (13.6%)
80円以上90円未満	6例 (27.3%)
90円以上100円未満	2例 (9.1%)
100円以上	8例 (36.4%)

(ウ) 乳飼比

前年より0.9%減の43.4%(標準偏差: ±10.8%、中央値41.7%)となりました。

【乳飼比階層毎内訳】

30%未満	1例 (4.5%)
30%以上40%未満	9例 (40.9%)
40%以上50%未満	6例 (27.3%)
50%以上60%未満	3例 (13.6%)
60%以上	3例 (13.6%)

(エ) 経産牛1頭当たり平均所得額

156千円(標準偏差: ±178千円、中央値146千円)で、前年を13千円上回りました。

【経産牛1頭当たり平均所得額階層毎内訳】

1千円未満	5例 (22.7%)
1千円以上100千円未満	4例 (18.2%)
100千円以上150千円未満	2例 (9.1%)
150千円以上200千円未満	4例 (18.2%)
200千円以上250千円未満	3例 (13.6%)
250千円以上	4例 (18.2%)

(オ) 所得率

13.7%(標準偏差: ±16.2%、中央値13.0%)で、前年を0.7%上回りました。

【所得率階層毎内訳】

10%未満	8例 (36.4%)
10%以上20%未満	8例 (36.4%)
20%以上30%未満	3例 (13.6%)
30%以上40%未満	1例 (4.5%)
40%以上	2例 (9.1%)

イ 安全性(負債比率)

売上高に対する負債比率の平均は51.0%(標準偏差: ±41.0%、中央値37.8%)で、前年との比較で9.3%下回りました。

【負債比率階層毎内訳】

20%未満	9例 (40.9%)
20%以上40%未満	4例 (18.2%)
40%以上60%未満	3例 (13.6%)
60%以上80%未満	2例 (9.1%)
80%以上100%未満	2例 (9.1%)
100%以上	2例 (9.1%)

(3) 労働生産性

経産牛1頭当たりの平均投下労働時間は154.8時間(標準偏差: ±74.8時間、中央値150.4時間)で、200時間未満の事例は19事例(86.4%)でした。

【経産牛1頭当たり労働時間階層毎内訳】

110時間未満	6例 (27.3%)
110時間以上150時間未満	5例 (22.7%)
150時間以上200時間未満	8例 (36.4%)
200時間以上250時間未満	1例 (4.5%)
250時間以上300時間未満	1例 (4.5%)
300時間以上	1例 (4.5%)

3 考察

(1) 生産技術指標

ア 繁殖管理

平均分娩間隔は、令和2年度調査事例で14.6か月であり、令和2年の牛群検定成績における県内平均分娩間隔と同じ数値でした。

ほぼ全ての事例で14.0か月を超えており、最も長い事例は16.3か月でした。

15か月を超過している事例は、経産牛頭

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品  
MPアグロ株式会社

本社:北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店:TEL 019(638)3291

数が24頭の比較的小規模のものから100頭を超える事例も含まれており、頭数規模による偏りは見られませんでした。

暑熱ストレスの影響や、農繁忙期における観察不足等が要因として考えられました。

平均産次数は昨年とほぼ同様の2.6産で、昨年より0.1産上回りました。

近年、夏の猛暑が続いており、暑熱ストレスによる影響は大きくなっていることから、暑熱対策の実施等で経産牛の事故廃用を減らし、繁殖成績を上げていくことが必要です。

また、分娩間隔を短縮するため、発情発見のICT機器の活用も有効と考えられます。

#### イ 生乳生産

経産牛1頭当たり平均産乳量は8,473kgで、令和元年度平均より41kgの減となりました。

なお、牛群検定加入農家（21戸平均）と非加入農家（1戸）を比較すると、加入農家が8,504kg、非加入農家が7,820kgで、その差は684kgでした。

#### ウ 乳質

前年と同様にほぼ全ての事例で、夏季に乳成分が低下する傾向が見られました。

繁殖性や収益性を向上させるためにも、暑熱対策、飼料給与、給水面の改善が必要と思われました。

### (2) 財務指標

#### ア 収益性

##### (ア) 経産牛1頭当たり平均所得額

生乳販売平均単価は121.8円、中央値は122.6円となりました。

個体販売を含めた1頭当たりの平均年間所得は156千円と、令和元年度平均との比較では13千円増となりました。

乳飼比は平均で43.4%と、令和元年度より0.9%低下しました。

##### (イ) 生乳1kg当たり生産原価

生乳1kg当たりの労働費を除いた生産原価では、100円以上の階層が8事例と一番多く、次いで80円以上～90円未満の6事例でした。

配合飼料や輸入粗飼料価格は、ここ数年で最も高い水準となっており、依然高

止まり傾向にあります。加えて燃料価格、雇用を含めた労働費単価の上昇率もその要因と思われれます。

#### イ 安全性

経営の安全性（健全性）の指標となる負債比率は20事例（90.9%）で100%未満でした。

100%を超えた2事例の要因としては、施設整備に係る借入金や負債整理資金によるものでした。

### (3) 労働生産性

経産牛1頭当たりの投下労働時間は、110時間に満たないものから300時間を超えるものまで大きな開きが見られました。

経産牛頭数が少ないほど労働時間が増える傾向にあり、200時間以上の階層で3事例となりました。

## 4 まとめ

令和2年度の調査では、生乳単価が1.7円の増であり、平均個体乳量は減少したものの、初生牛や廃用牛販売価格が比較的高めに推移したことにより、1頭当たり平均所得額は13千円の増、所得率は0.7%の増となりました。

しかしながら、生産原価は1kg当たり約7円の増であり、配合飼料価格や雇用賃金の増加等がその要因として考えられます。

今後、経営者が継続して取り組むべき事項として、次の3点を理由とともに掲げ、今回の分析のまとめとします。

#### (1) 夏季暑熱対策の強化による分娩間隔の短縮と分娩事故の抑制

近年夏季の気温上昇が大きく、猛暑となる日が増える傾向であり、ほとんどの調査事例において、夏季の乳成分低下が顕著に見られており、長期不受胎等による分娩時期の偏りや、分娩間隔長期化の原因となっているものと考えられます。

暑熱期における良質粗飼料や清潔な水の給与により、乳量確保のための必要な乾物摂取量の確保やエネルギー要求量を充足させるための飼養管理は、引き続き取り組む必要があります。

また、暑熱期の分娩事故発生により、平均産次も2.6産とやや上向いたものの、早い時期からの暑熱対策徹底や給水施設の整備など、

農畜産物の「安心・安全」を未来につなぐ

 **小田島商事株式会社**

プレミックス工場 0198-26-4726 代 家畜衛生食品検査センター 0198-26-5375 代 大館(営)、横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

<動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材>

本社 〒025-0311 花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151 代  
花巻(営) 0198-26-4700 代 八戸(営) 0178-34-2284 代  
大船渡(営) 0192-26-4740 代

経産牛のストレス軽減を図る必要があります。

初任牛価格の高騰により、育成牛を十分確保してない経営体は、乳量確保のために高額な経産牛を導入することになります。

後継牛確保のため、ICT機器の活用等による繁殖成績の改善や、性選別精液の利用等を図る等、自家育成牛が必要です。

## (2) 牛群検定事業への参加による飼養牛の能力把握と牛群の整備

経営成績向上のためには、牛群検定データを活用し、牛群全体の能力を把握し、問題牛の淘汰や個体管理の徹底による能力向上等を図る必要があります。

引き続き、検定推進協議会等の関係機関と

連携し、牛群検定の試行などによる検定加入率の向上のほか、生産者及び現地指導担当者向け、検定データや繁殖 Web システム等の利用や、個体管理技術等、情報資料の提供について、取組が必要です。

## (3) 労働力確保について

経営者の高齢化や後継者不足等に伴い、労働力確保は大きな課題です。

特に、規模拡大を行う際には、粗飼料調整や育成牛管理の外部委託等による労働負担の軽減や、雇用の確保を検討する等、早期からの対応が必要です。

また、場合によっては、経営の第三者継承も、検討することも必要です。

## 岩手県立農業大学校がJGAP【家畜・畜産物】認証を取得

岩手県立農業大学校 畜産学科  
教授 武田 哲

岩手県立農業大学校(以下「県立農大」という。)は、令和3年11月24日付でJGAP【家畜・畜産物】<sup>\*</sup>の認証を取得しました。これは、県内教育機関として初めての取得となります。

取得した認証品目は、乳用牛・生乳及び肉用牛の2品目で、①飼養、②畜産物取扱い及び③自給飼料生産の3工程が認証の対象となっています。

これまで、県内では乳用牛・生乳、肉用牛のそれぞれ1品目での認証はありましたが、二つそろっての取得も県内初となります。

県立農大によれば、「学生が高度な農場管理手法を身に付けられるよう、2018年度から新たなカリキュラムとして農業生産工程管理に関する教育に取り組んで来た。今回の認証取得で、本校で生産された生乳や肥育牛がJGAPの基準をクリアしたものであることをアピールできる。本校で、この認証を下に生産活動を行った学生が、その知識を生かして、本県、畜産の発展に貢献することを期待している。」とのこと。今後、県立大学校がJGAPの県内での普及拡大において中核的役割を果たすことが期待されます。



JGAP認証取得時に記念撮影する畜産学科学生、職員一同



## ※JGAPとは

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組を「GAP」といい、JGAPは、「一般財団法人日本GAP協会」が運営する認証制度。「家畜・畜産物」については、アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を含み、それぞれの生産工程を基準に沿って実施し、記録し、点検し、評価を繰り返し、生産工程の管理や改善に取り組む。

- 共進会用馬・乳牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・●牛馬手入用毛ブラシ
- 肉牛用牛衣
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・スック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんてい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承っております

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 **塩釜馬具店**

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393 (労働福祉会館隣)

## 岩手県養豚振興会令和3年度 第2回養豚経営研修会



遠藤会長挨拶

岩手県養豚振興会（遠藤啓介会長）主催の標記研修会が、令和3年12月10日に開催されました。通常であれば、会員の養豚経営者のほかに、賛助会員（動物用医薬品会社などの関係企業）を含む約100名が一堂に会しての開催ですが、新型コロナ対策のため、昨年度に引き続き、会場（岩手産業文化センター）では正会員限定とし、賛助会員はリモート参加する形式となりました。



講師の 数野 由布子氏

研修会では、最初に、有限会社サミットベテリナリーサービス数野由布子氏及び石関沙代子氏のお二方から「豚熱の症状、所見、ワクチンプログラムについての基礎」と題する講演がありました。



講師の 石関 沙代子氏

実際に発生した農場で、感染した豚が豚房の片隅にうづくまる写真や下痢症状を出している写真などが紹介され、

この病気の恐さを感じ取ることができました。

講演後、参加者との間で、ワクチン接種へのタイミングなどについて質疑応答がかわされました。ワクチン接種済み農場でも発生があることから、関心が高まっているものと思われました。



講師の 佐藤 裕夫氏

続いて、岩手県農林水産部畜産課の佐藤裕夫主査から、「本県における豚熱をめぐる状況と今後の対応について」と題する講演がありました。

本県でのワクチン接種状況のほか、ワクチン接種豚から生まれた子豚の抗体保有状況などが紹介されました。質疑応答では、飼養衛生管理基準徹底の難しさや、野生イノシシ対策などについて意見が交わされました。

※ 研修会2日後の令和3年12月12日に隣県宮城の農場で豚熱が発生（国内75例目）し、さらに、12月15日には宮城県で2例目（国内76例目）の発生がありました。岩手県でも一層の対策強化が望まれるところです。



研修会場

## 第3回全国ヨーグルトサミットinいわて

### 酪農・乳業を知ろう！ヨーグルトで つながるシンポジウム

令和4年1月15日、いわて県民情報交流センターで、標記のシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、第3回全国ヨーグルトサミット開催実行委員会と一般財団法人自治総合センターの主催によるもので、基調講演、パネルディスカッション、ヨーグルト党総選挙結果の3部構成で行われました。

その概要は次のとおりです。

### 1 基調講演



基調講演講師の向井智香氏

講師：全国ヨーグルトサミット  
公式アンバサダー・カッ  
プヨーグルト研究会

向井 智香

演題：ヨーグルトの魅力を知  
る！ ご当地ヨーグル  
ト入門講座

要旨：ご当地ヨーグルトを、「特定の地域で製造・  
販売される独自性の強いヨーグルト」と定



一般社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵（IVF卵）、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器（MVE社製）を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

〒028-4134 岩手県盛岡市下田字紫沢301-5  
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334 <http://liaj.or.jp/morioka/>

義付けた上で、ご当地ヨーグルト誕生には、「牧場の6次産業化」、「酪農家による乳業の立ち上げ」及び「観光資源としての牧場設立」の3パターンがあるとし、次に、特徴あるご当地ヨーグルト5点を紹介しました。

- ①福岡県 糸島みるくぶらんと のむヨーグルト伊都物語 (プレーン)
- ②北海道 カントリーホーム風景 草原のヨーグルト でーでーぼっぼ (セミスイート)
- ③広島県 あせひら乳業 LP28ドリンクヨーグルト
- ④栃木県 那須高原りんどう湖ファミリー牧場 ロイヤルジャージーハードヨーグルト
- ⑤岩手県 なかほら牧場 中洞牧場ヨーグルト無脂肪タイプ (プレーン)

岩手県のヨーグルトについては、ほぼプレーンで、しかも、アルミパウチが多いことが特徴で、アルミ素材の素晴らしさの一方でパウチ(小袋)ならではの悩みもあると解説しました。

## 2 パネルディスカッション

テーマ：ヨーグルトサミットの輪でつながる酪農・乳業の未来

### ○ ファシリテーター (進行)

茨城県小美玉市役所企画財政部企画調整課シティプロモーション係課長補佐 中本 正樹

### ○ パネラー

- ・全国ヨーグルトサミット公式アンバサダー・カップヨーグルト研究会 向井 智香
- ・株式会社企業農業研究所 (岩泉町) 中洞牧場 催事、広報、製造担当 岡田 慎也
- ・那須高原りんどう湖ファミリー牧場 (栃木県) 乳製品外壳グループグループ長 岡本 果恋
- ・株式会社糸島みるくぶらんと (福岡県) 営業部営業課長 那須 貴彦



パネルディスカッション

- ・カントリーホーム風景/株式会社風景 (北海道) 専務取締役 清水 伸哉
  - ・あせひら乳業株式会社 (広島県) 代表取締役 児玉 尚子
- 全員が自己紹介した後、各々からヨーグルトづくりを始めた経緯や自社ブランドの特徴等をPRしました。

## 3 ヨーグル党総選挙結果発表

第3回全国ヨーグルトサミット開催実行委員会事務局(湯田牛乳公社) ホームページ上での投票結果は次のとおりです。

### ○ ム党 (甘くない)

- ・第1位 岩泉ヨーグルトプレーン (岩手県・岩泉ホールディングス)
- ・第2位 球磨の恵みヨーグルト (熊本県・球磨酪農農業協同組合)
- ・第3位 たのはたプレーンヨーグルト (岩手県・田野畑村産業開発公社)

### ○ カ党 (甘い)

- ・第1位 おおのミルク村 のむヨーグルト (岩手県・おおのミルク工房)
- ・第2位 プレミアム湯田ヨーグルト加糖 (岩手県・湯田牛乳公社)
- ・第3位 くずまき高原ヨーグルト (岩手県・くずまき高原牧場)

## 畜産の研究 (136)

### ICT機器を活用して日本短角種の交配日を推定する試験の紹介

日本短角種は春から秋まで牧野で過ごし、冬の間は牛舎で飼う「夏山冬里」の飼養形態が一般的です。また牧野で過ごす間に種雄牛と繁殖雌牛を混牧し、自然交配により妊娠するので、人工授精を行う必要がなく省力的に子牛を生産することができます。しかし、自然交配であるがため、いつ



液体窒素、凍結精液保管容器を通じて畜産界にお手伝いをしています。



東邦岩手株式会社

本社 岩手県紫波郡矢巾町大字藤沢第10地割136番地 TEL 019 (697) 4151  
 ホームセンター (直売部門) 盛岡市みたけ2丁目1番45号 TEL 019 (641) 1195  
 盛岡市みたけ2丁目1番45号 TEL 019 (641) 3143  
 宮古営業所 宮古市松山第6地割30番地1 TEL 0193 (63) 4251  
 奥南営業所 北上市下鬼柳町14地割5番2号 TEL 0197 (67) 0551

交配が行われたのか分からなく、分娩予定日の特定もできず生産者の分娩管理の負担が大きくなっています。種雄牛の乗駕行動を全て見て確認すれば分娩日予測が可能となりますが、現実的には困難です。そこでICT機器の一つであり、牛の動きを数値化できる加速度センサーを種雄牛に装着し、乗駕行動日時を推定することを目的に試験を行っていますので紹介します。

① 加速度センサーとは

加速度とは、単位時間当たりの速度の変化率のことで、加速度センサーはその加速度の測定装置又は機器を指します。試験には前後方向、左右方向、垂直方向を測定できるものを用いています。これを種雄牛の背に装着することにより、それぞれの方向の加速度を検知することができます(写真)。

② 放牧中の種雄牛に装着した結果

放牧中の種雄牛の背に加速度センサーを装着し、乗駕行動を目視で確認しました。その結果、静穏時、前後方向は0g付近、垂直方向は1g付近を示しましたが、乗駕行動時、前後方向は増加(0.5g以上)、垂直方向は減少(0.55g以下)しました(図)。この特徴的な数値の変化を検出することにより、約9割の乗駕行動を発見することができました。一方、左右方向の加速度には一定の法則はありませんでした。

③ 今後の計画

来年度は種雄牛に加速度センサーを、種雄牛

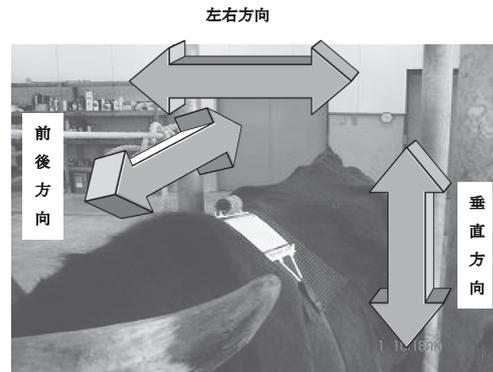


写真 加速度センサーの3方向の模式図

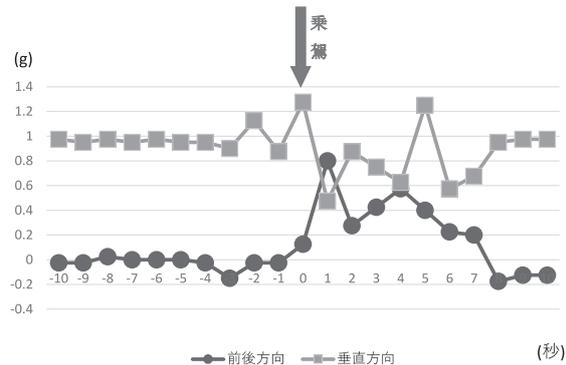


図 乗駕時の加速度値の例(乗駕の前後10秒間)

と繁殖雌牛に位置情報が分かる端末を装着し、乗駕行動があった時に一緒にいた雌牛を位置情報から割り出し、交配日の推定により分娩日を予測する計画です。

家畜の保健衛生 (140)

岩手県における野生いのししの豚熱ウイルス検査状況

平成30年9月、26年ぶりに岐阜県で発生した豚熱は、発生地域が徐々に拡大しています。令和3年12月に宮城県の丸森町で発生した際には、発生農場から精液を購入していた本県の農場が疫学関連農場となり、当該精液を使用した豚が疑似患者として殺処分されました。また、宮城県の発生農場から450mのところまで捕獲された野生いのししが豚熱ウイルス(CSFV)に感染していたことが確認されており、野生いのししがウイルスを伝播させたのではないかと見られています。このように、CSFVの主な伝播には、①人や物に付着したウイルス及び感染豚やその生産物の移動、②いのししやネズミ等の野生動物を介した経路があります。特にCSFVに感染した野生いのししが直接的又は間接的な感染源として重要な役割を果たし

ていると考えられています。本稿では、本県における野生いのししのCSFV検査状況を説明します。

1 野生いのししのCSFV検査状況

本県では令和2年11月から検査を開始し、これまでに全470頭(令和4年1月末現在)の陰性を確認しています。

北東北3県で陽性事例は確認されていませんが、福島県、山形県及び宮城県では、多くの野生いのししで陽性が確認されており(下表)、本県から最も近い地域は宮城県大崎市となっています。

	岩手県、秋田県、青森県	福島県	山形県	宮城県
初確認年月	確認なし	令和2年9月	令和2年12月	令和3年6月
陽性頭数累計	0頭	40頭	111頭	104頭

なお、アフリカ豚熱ウイルス検査も同時に実施されていますが、これまで陽性事例は確認されていません。

2 検査方法

CSFVの検査には、野生いのししの血液を使用します。血液の採取は、野生いのししの捕獲者(岩手県猟友会)と協力して実施しています。専用の

容器に採取された血液を冷蔵で家畜保健衛生所に送付していただき、リアルタイムRT-PCRという手法でCSFV遺伝子の検出を行っています。

### 3 今後の見通し

平成30年9月の岐阜県における豚熱の発生以降、確実に野生いのしし間で感染が東西へ拡大しています。野生いのししに対する様々な対策（経口ワクチン、捕獲圧の上昇等）が各地で行われていますが、決定打にはなっていない状況です。山形県

や宮城県では野生いのしし間での感染が拡大しており、本県へのCSFV侵入が危惧されています。

CSFVに感染した野生いのししは、唾液や糞便等にウイルスを排出するため、野生いのししを捕獲した際には、使用した資器材、長靴、車両等の消毒（逆性石鹼、アルコール、消石灰等）を徹底するようにお願いします。また、死亡した野生いのししを発見した際は、手を触れず、速やかに管轄する市町村又は家畜保健衛生所にご連絡をお願いします。

## 畜産技術情報 (89)

### 春先の牧草地の管理

#### 1 堆肥の施用

土づくりや化成肥料の一部代替のため、春先に堆肥やスラリーを施用する場合は、一番草への堆肥やスラリーの混入による不良発酵を防止するため以下に注意します。

- (1) トラクタが圃場に入れるようになったら、散布はできるだけ早く行います。遅くとも4月中旬には作業を終えるようにしましょう。
- (2) 堆肥は切り返し等により腐熟が進んだものを散布します。
- (3) 散布後、堆肥の塊が見られる場合は、パスチャーハロー等をかけて堆肥を砕き散らします。



パスチャーハロー



採草地へ炭カルルの散布

#### 2 石灰資材の施用

経年草地では、pH6.0を下回らないように石灰資材の施用が必要です。石灰資材の施用による土壌の酸性矯正の効果は、牧草の肥料成分の吸収効率が向上し、微生物が増殖して、有機物の分解が促進されます。また、石灰資材に含まれるカルシウムには、植物の生長に伴って細胞を強くし、倒伏し難くする役割があります。土壌pHの変化はゆるやかで、一気に改良することが難しいことから、毎年の散布が重要となります。石灰の種類は表1を参考にしてください。

表1 石灰資材の種類

種類	アルカリ分*	特徴
苦土炭カル	53%	粒状あり。単体では補給しづらい苦土も一緒に施用できる。
炭カル	53%	最もおなじみの資材。
粗砕炭カル	53%	効き目がゆっくり。1t/10a程度を散布する。効果は2~3年かけて現れる。
てんろ石灰	50%	粒状あり。微量元素を多く含むが、遅効性のためpH矯正能力は低い。
消石灰	60%	速効性あり。

\*アルカリ分は商品によって異なる場合があります。

また、春に散布する場合は散布後1週間位経ってから化成肥料を散布します。同時又は直後に化成肥料を散布すると、化成肥料の窒素が石灰と反応して、アンモニアガスとなって空中に消失してしまうので注意が必要です。

#### 3 化成肥料の施用

- (1) 施肥時期

牧草は平均気温5℃から生育を開始し、春先から肥料を十分に吸収できると出穂茎が増加すると考え



岩手県チキン協同組合

岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-47  
TEL 019-624-2870 FAX 019-625-0486

られます。牧草地がある程度乾燥して圃場にトラクタが入れるようになり、牧草の葉色が回復したら、早目に施肥を行います。出穂茎は、穂の無い茎の6～7倍の重量があるとされ、出穂茎の多少が一番草の収量に大きな影響を与えます。

(2) 施肥量

維持草地の施肥目安は、表2のとおりです。

表2 牧草地の施肥基準（維持草地）

区分	草地種類	施肥時期	10aあたり施肥量(kg)		
			窒素	リン酸	カリ
採草地	オーチャードグラス主体	早春	10	5	10
		刈取後（最終刈後除く）	5	2.5	5
	チモシー主体	早春	10(*5)	5	10
		刈取後（最終刈後除く）	5	2.5	5
放牧地		早春（牧草ほう芽期）	6	3	3
		夏期（7月）	6	3	3
	スプリングフラッシュ抑制	初夏（6月中旬）	6	3	3
		夏期（8月上旬）	6	3	3

〔岩手県牧草・飼料作物生産利用指針〕より

\*チモシー主体草地の窒素の施肥量について、利用初年度は倒伏防止の観点から、5kg/10a程度に抑える

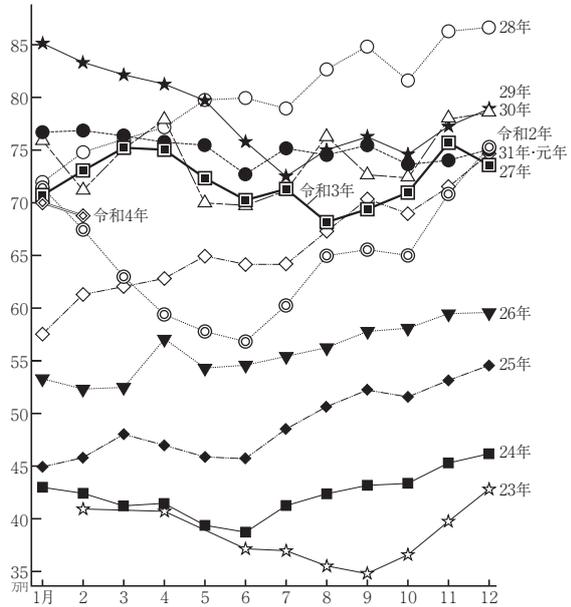
県内黒毛和種子牛市場成績

(全農岩手県本部)

市場区分	性別	令和4年1月			令和4年2月		
		頭数	平均価格	平均体重	頭数	平均価格	平均体重
県南初日 胆江・気仙	雌	93	696,347	286	101	693,948	285
	雄						
	去勢	134	717,717	319	138	738,012	321
	計	227	708,962	305	239	719,391	306
県南2日目 磐井	雌	92	638,550	284	93	660,343	282
	雄						
	去勢	138	732,018	324	141	733,248	321
	計	230	694,631	308	234	704,273	305
中央初日 紫波・盛岡 花巻・北上 遠野	雌	122	656,339	289	132	611,375	283
	雄						
	去勢	146	717,328	314	183	723,632	314
	計	268	689,565	302	315	676,591	301
中央2日目 宮古・北部 奥中山・久慈	雌	137	674,364	285	137	641,886	278
	雄						
	去勢	189	717,538	306	231	713,481	304
	計	326	699,394	297	368	686,827	294
中央3日目 滝沢・雫石 八幡平・玉山 岩手・葛巻	雌	132	660,250	272	143	642,685	279
	雄						
	去勢	194	737,573	301	239	682,497	300
	計	326	706,264	289	382	667,593	292
合計	雌	576	665,141	283	606	646,938	281
	雄						
	去勢	801	724,877	311	932	714,151	310
	計	1,377	699,889	299	1,538	687,668	299

※ 価格は円（税込み）、体重はkg

子牛価格の推移



県内家畜市場における指定肉用子牛取引実績

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	令和4年1月		令和4年2月	
	頭数	平均価格	頭数	平均価格
黒毛和種	878頭	683,252円	993頭	671,407円
褐毛和種	3頭	478,500円	-	-
日本短角種	44頭	307,425円	-	-
ホルスタイン種	-	-	-	-
交雑種 (母がホルスタイン種)	3頭	269,500円	5頭	274,120円

※ 指定肉用子牛とは、肉用子牛生産者補給金制度における、平均売買価格算定の対象となる牛（区分ごとに体重の範囲が定められている。）

※ 平均価格は消費税込み

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる!畜産!5

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!  
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!  
配信中の内容:畜産の最新研究/政府を見る/豚の肉質を中心とした育種改良技術/鶏肉特集第1弾江戸文化を受け継ぐ東京しゃもを大特集!/他

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846



スマートフォンからはこちら  
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産